

令和7年度 粟ノ保小学校だより

令和7年11月4日 NO. 10



ひまわり

羽咋市立粟ノ保小学校
校長 田中 利弘

スローガン【すべては 子どもたちの 幸せのために】

◇授業参観及びスマホ・ケータイ安全教室◇ 10/15(水)

授業参観では、全校「親子道徳」を実施しました。あるテーマに沿って親子で考えを深める授業です。その後、スマホ・ケータイ安全教室を開催し、「低学年」、「高学年・保護者」の2部に分かれて、発達段階毎に合わせたSNS等の危険の事例について学びました。



◇新聞投稿の反響より◇

1学期より「書く力」を高めるための取組みの一つに「新聞投稿（地鳴り・Voice/スクランブル）」を継続しています。ご承知の通り、今年度は先生方も挑戦してもらっています。

11月4日現在掲載数 児童46名（全児童62名）、先生19名（延べ人数）

さて、10月新聞欄に「粟ノ保小」に寄せられる卒業生からの記事がありました。

5月にも卒業生の投稿がありましたが別の方からです。

【後輩の活躍誇りに思う】

「羽咋の小中学生新聞活用で表現力アップ」全国学力調査で羽咋市の小6、中3記述式問題の正答率県平均より上。新聞を読んだり、「地鳴り」に投稿したりして、文章力や表現力を高める取組みが実を結んだ。羽咋市の先生方が、地鳴りの書き方をテーマにした研修会を行ったことも多く作用したのではと思う。(一部抜粋)

【くらしの日記】より

以前より「地鳴り」欄で児童の投稿があったが、今度は先生方も一緒に投稿を始められたとのこと。現にその後、投稿文を何度か目にした。年齢も書いてあるのでいろいろ想像しながら読んだ。すばらしいなあと思った。この年齢になって（この方は白山市在住の77歳）粟ノ保小学校と聞いただけで、ただ懐かしく思い出にうずくまってしまいそうになる。、、、後日、掲載紙を千葉の兄への宅配便に入れた。(一部抜粋)

地鳴り投稿を通して、反響の大きさに驚くばかりです。本校卒業生も県内はもちろん県外にもたくさんいらっしゃいます。掲載紙を千葉のご兄弟にまで届けているなんて思いもよりませんでした。母校粟ノ保小の記事が掲載されることで卒業生OB・OG方が喜んでいただいていることを私たち先生方も励みにしていきます。

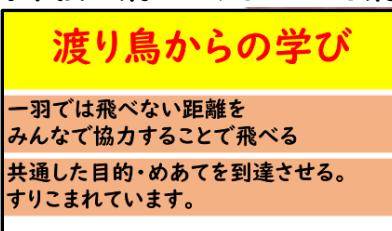
裏面あります

◇11月全校集会：校長の話◇11/4(火)

11月に入り、2学期も折り返しです。季節も冬に向かう時期に入りました。空を見上げると鳥の群れが鳴きながら飛んでいく景色が見られます。日本にやってくる渡り鳥の中でも白鳥やガンなど大型の鳥は、「渡り鳥のV字飛行」で知られています。子ども達に、①～④の鳥の名前を聞きました。特に④は今のトレンドです。来年は、本州初の邑知潟放鳥のトキです。



なぜ、V字で飛ぶかという理由があります。鳥が羽ばたくと、その後ろに飛ぶのに都合のよい、体が浮きやすい風の流れができます。後続の鳥は、斜め後ろでこの風に乗ることにより、少ない力で飛ぶことができるのです。単独で飛ぶよりも70%も飛行距離を伸ばせるそうです。



一番苦しい先頭をみんなで順に交代していくのです。最近の研究で分かったのは、「鳥たちは頻繁に位置を変え、隊列の先頭に立つ時間は、ほぼ全員で釣り合いをとっていた」そうです。

渡り鳥の群れは、この助け合いを繰り返しながら遠くまで飛ぶことができるのです。互いの風圧を使って助け合い、先頭を交代し、励ましの声をかけ合い、隊列を守り、時には傷ついた仲間を守ることで単独で飛ぶよりも大きな力を発揮しているのです。強い結束力や絆さえ感じます。



私は、今まで何気なく越冬する渡り鳥を見て、がんばってみんなと離れず集団行動していて、鳥の備わっている本能ぐらいで思っていました。鳥たちは、目標（みんなでゴール地へたどり着く）のために、助け合う姿・励まし合う姿（鳴き声、遅れたら寄り添う）に感銘を受けました。

アフリカのことわざも紹介しました。学校生活に置き換えてみると、深いことに気づきます。渡り鳥たちのように友達の助けを借りながらも、決して友達任せにするのではなく、自分の役割をしっかりと果たし、一人ひとりの子ども達が互いの個性や長所を活かし、協力するすがたです。

私たち教員仲間にも十分当てはまります。

◇いしかわ教育ウィーク◇11/4(火)～11/7(金)

石川県では、県民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携し、ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子どもたちを育成するとともに、生涯にわたって自ら学ぶ人づくりを進め、本県の教育の充実と発展を図るために、11月1日を「いしかわ教育の日」とし、また、教育の日にふさわしい取組を集中的に展開する期間として11月1日から7日までを「いしかわ教育ウィーク」としています。

※いしかわ教育ウィーク期間中は、いつでも来校しどの学年の授業参観も可能です。